

## プレスリリース

### 日米NGO等による震災起因漂流物への対応に係るミーティング 実施結果について

#### 1. 目的

東日本大震災により海洋へ流出した大量の漂流物が、2012 年秋以降大量に漂着することが予想されている北米大陸西側海岸において、従前より海岸漂着物の回収活動などに取り組んできているNGO 等の関係者と会合を持ち、NGO等のレベルでどのような連携・協力が可能なのかについて、意見交換を行うことが目的である。

#### 2. 実施場所

米国オレゴン州ポートランド市及びキャノンビーチ市

#### 3. 実施日及び内容

2012(平成 24)年 8 月 (以下、現地時間)

4 日(土)午後/キャノンビーチ市海岸視察及びヒアリング

5 日(日)午前/会合目的の確認、米国内各州 ICC コーディネーターからのヒアリング

午後/米国内各州 ICC コーディネーターからのヒアリング、日本での取組み紹介

6 日(月)午前/外来生物問題についての提起、今後の対応に係る意見交換

午後/今後の対応に係る意見交換、会合成果のとりまとめ

#### 4. 参加者

日本側；一般社団法人 J E A N / 4 名 + 通訳 1 名

海ゴミ研究プロジェクト / 2 名

オブザーバー；環境省水・大気環境局海洋環境室 / 2 名

米国側；オーシャン・コンサーバンシー / 4 名

ICC コーディネーター / 5 名

(アラスカ州、ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州、ハワイ州の計 5 州)

オブザーバー；国務省国務省東アジア局日本部経済関係担当

アメリカ海洋大気庁 Restoration Center

#### 5. 会合の成果について

※別紙参照

2012(平成 24)年 8 月 9 日

一般社団法人 J E A N

代表理事 金子 博

理事・事務局長 小島あずさ

# 日米NGO等による震災起因漂流物への対応に係るミーティング

【東日本大震災に伴う洋上漂流物に関する海外動向調査】

## 実施報告【速報版】

2012(平成 24)年 8 月 9 日

一般社団法人JEAN

## 1. ミーティングの概要(結果とりまとめ)

日本側NGOである一般社団法人JEAN及び米国側NGOであるオーシャン・コンサーバンシー及び研究者が参加し、3日間にわたり「日米NGO等による震災起因漂流物への対応に係るミーティング」を計画どおり実施することができた。本ミーティングの総括について、両NGOは以下のように総括を行った。

### 【総括】

○この3日間は、震災起因の漂流物及び海洋ごみ問題に取り組むべく太平洋の両側から集まった人々が、熱の入ったネットワークを作り、よりつながりを強めるための貴重な機会となった。米国において震災起因漂着物への関心が高まる中、日本のNGOのパートナーから実際の様子を聞いた。状況写真や研究成果及び経験を通して、震災起因漂着物とより大きな問題である海洋ごみとの違いを米国側関係者に伝えられた。震災起因の漂着物の発生は予測できないが、海洋ごみは人が作り出したものであり、予防できる。

○本ミーティングの参加者のほとんどは、国際海岸クリーンアップ（ICC）に携わってきたグループであり、そのことによって参集することができた。すでに20年以上にわたって、共に海洋ごみ問題に取り組んできている。ICCで取り組まれてきた経験と責任、そして、情熱は強力なものだ。そして今、震災起因の漂着問題にも着手している。

- ・東日本大震災の結果、今また私たちをつなげた。しかし、日常生活している人が出している海洋ごみと、震災起因による漂着物とは様相が違う。
- ・私たち全員が今回のさまざまな発言に動かされた。米国および日本の専門家たちと実際に地域で活動しているICCコーディネーターたちが質疑を行い、互いの違いや類似点を学ぶことができた。
- ・これは長い対話の始まりである。国際海岸クリーンアップで毎年呼びかけ合い、共に活動してきたように、震災起因の漂着物についても同様に、国際的で協力的な努力が必要なのだ。

○このミーティングに集った人々は、大きな活動のなかの小さい分野の代表である。しかしながら、この会合を基に、ネットワークはさらに広がった。3日間の会合には日米のNGOのほか、研究者や専門家、連邦政府とNOAAの代表者が参加し、啓発と提唱に関わった。

○この3日間で扱われたトピックは、参加者自身の気持ちと問題への懸念であった。それらが人々の優先的な関心事であるとともに、討議の優先事項でもあった。

- ・震災起因による漂着物、及び、一般的な海洋ごみについて対策状況
- ・震災起因漂着物による侵略的外来生物
- ・ウェブカメラや海洋ごみに特化した研究とモニタリングなどの研究技術

○この問題は継続的な課題である。今回の会合は意見を出し合う場所であり、短期及び長期的な次のステップのための助けとなるものだ。また、すでに行われてきた成果を共有する（さらに他の地域にも広げられるかどうか）という可能性を提供し、新たなアイデアを考える場でもあった。

#### オーシャン・コンサーバンシーの発言から：

「一つの州や郡、政府省庁、NPO だけが津波漂着物に対して対応して済むものではない」とオーシャン・コンサーバンシーの「トラッシュ・フリー・シーズ（ごみのない海）」ディレクター、デイビッド・ピッテンジャーは発言し、今回のミーティングの総括を以下のようにした。

「この会合は異なった視点と経験を持ち、異なった分野の人々を一箇所に集め、これまでにされてきたことや今後必要な行動について論議する重要な機会であった。我々は毎年 ICC 活動にクリーンアップコーディネーターたちと連携してきたが、今回さらに、これから起こることに対しての準備を進めるために連携と研究、そしてアイデアを共有した。」

また、「この3日間で私が見た ICC の力は勇気付けられるものであった」とオーシャン・コンサーバンシーの海洋ごみ専門家であり、保全生物学者であるニコラス・モラスは言い、「それは、一年に一回の海洋ごみクリーンアップではなく、一年中続く彼らの情熱である。そのことが、震災起因による漂着物問題について論議するために集まるのに当然、かつ不可欠なものだった」とした。

## 2. 海岸視察及びミーティングの状況写真



### 3. 添付資料(ミーティングにおける配布資料の一部)

- (1) 日米NGO等ミーティングの目的
- (2) タイムスケジュール
- (3) 参加者名簿
- (4) J E A Nの対応経緯
- (5) J E A Nの活動概要